

令和2年度

公益財団法人

多摩市文化振興財団

事業計画書

目次

はじめに	…1
I. 基本的な考え方	…2
1 市民がパルテノン多摩に求めているもの（市民ニーズ調査結果）	…2
2 令和2年度事業の実施方針	…4
II. 個別事業推進計画	…6
1 文化芸術の振興、普及啓発事業	…6
2 郷土文化事業	…9
3 地域活性化事業	…11
4 コミュニティ活動支援事業	…12
5 票券、友の会、メセナメンバー	…13
6 受託事業	…13
III. 法人運営	…13
1 地域貢献に関する取り組み	…13
2 組織運営・研修	…13
IV. 施設大規模改修に伴う関連事業	…14
1 工事引き渡しまでの施設管理	…14
2 大規模改修関連業務	…14
V. 施設の再開館後の運営に向けての準備業務	…15
1 再開館に向けた事業展開	…15
2 その他財団による再開館準備業務	…15
3 共同事業体による再開館準備業務	…16
VI. 本計画の効果測定及び評価について	…17
VI. まとめ	…17

はじめに

財団法人多摩市文化振興財団は多摩市立複合文化施設（愛称・パルテノン多摩）の管理・運営を通して、市民文化活動のより一層の向上及び文化振興のための事業を推進し、市民の自主的な文化活動の促進を図り、市民文化の創造に寄与するために昭和62年（1987年）3月に設立されました。平成22年3月には公益財団法人の認定等に関する法律の規定に基づき、都内でも早くに公益財団法人として認定を受けました。昭和62年以来、当財団はパルテノン多摩の管理運営を行い、平成18年度からは指定管理者として当施設の管理・運営にあたってきました。また、パルテノン多摩に隣接した公園内駐車場は、一括管理することで効果的かつ効率的な管理運営が図られることから、指定管理による一括管理となっています。

財団の事業としては、音楽や演劇、映画等文化芸術の鑑賞の場を目的とした主催、共催、提携事業を大小ホールで実施するとともに、併設されている歴史ミュージアムにおいて多摩ニュータウンの開発をはじめ、郷土の歴史文化や自然環境を中心とした史資料の公開や普及の為に展示を行ってきました。更にキッズファクトリーにおいてはモノづくり等を通して学ぶ事業やマジックサウンドルームでは自動演奏楽器の展示、演奏等を実施してきました。

施設、設備の老朽化の為に、平成30年12月からは大ホールが使用中止になり、令和2年4月からはパルテノン多摩施設全体が休館となります。また、その後、大規模改修工事が予定され、施設のリニューアルオープンは令和4年の春が予定されています。

大規模改修後については民間事業者と協働による管理運営の方針が市により決定し、財団としては事業者を公募により決定し、令和元年12月に相手方となる事業者と多摩市複合文化施設等リニューアル準備およびリニューアル後の管理運営共同事業の民間パートナー協定となる「パルテノン多摩共同事業体基本協定」を締結しました。

また、令和2年度は財団事務所を移転し、リニューアルに向けての準備を行うとともに多摩市の文化振興と地域活性化に取り組む等、大きな節目の年度となります。

財団は、昭和62年3月以来32年間にわたり、一貫して多摩市の文化振興や地域活性化に力を注ぐとともに、経済環境の停滞や少子高齢化、市内在住人口の伸び悩みなどに加え、施設、設備の老朽化の進行という厳しい経営環境の下でも、実績と成果を蓄積し、地域との結び付きを深める事業、地域活性化への取り組み等の多様化する市民ニーズに応える努力をしてきました。

財団としては多摩市の文化芸術の振興、地域の活性化、信頼される施設運営を推進していくとともに、より地域の結びつきを強める事業、次世代の子ども達に対する取り組みを財団改革の取り組みとともに継続するミッションがあります。長期休館を期に、民間事業者と共に、リニューアル後にむけて、事業内容や取り組みの見直しを実施し、市民協働の推進、地域の活性化の取り組み、パルテノン多摩以外の場所へ出向いて実施するアウトリーチ事業の推進など、引き続き、市民の期待に応えてまいります。

I. 基本的な考え方

令和2年度は4月から施設が全面休館となります。また、7月から大規模改修工事も開始される予定であり、市より「多摩市立複合文化施設等大規模改修工事基本計画」等が示されました。財団は、「文化芸術を通してみんなが喜び、つながり、まちの魅力を創造する。」を基本理念とし、基本計画の目指すビジョンにむけて、民間事業者と協働して、再開館の準備を進めます。また昨年、実施した「市民ニーズ調査」の結果や今までの事業の評価を踏まえ、再開館に向けた準備を最優先として取り組んでまいります。

そして、市民協働、市民参画、社会包摂事業の基盤づくりに注力し、再開館に向けての企画の具現化と、その為の組織改革と人材育成を実施していきます。

民間事業者との協働による公立施設の管理運営については全国的にも、その実施例が少ない状況ですが、財団と民間事業者がそれぞれの強み、利点を活かして指定管理者としての業務ができるように、その具体的な役割と枠組みの構築に取り組んでいきます。

【目指すビジョン】

- ① 文化芸術の鑑賞に加え、市民の創作活動を支援し、市民自らが地域の文化を高める場となることをめざす。
- ② これまで以上に多くの市民が様々な使い方を発見し、まちの魅力を創造する文化施設となることをめざす。
- ③ 文化芸術の創造・交流の場として日常的なまちの賑わいを生み出すような管理運営をめざす。

(以上、「多摩市立複合文化施設等大規模改修工事基本計画」より)

【新生「パルテノン多摩」の理想像】

- ・市民協働による文化芸術振興、市民参画による施設運営や事業公演で先進的な取り組みをしている。
- ・文化芸術鑑賞や創造（非日常）、居場所づくり（日常）の両面で地域文化施設の代表モデルとなる。
- ・財団×民間企業による高品質・高効率の運営管理をしている。

1 市民がパルテノン多摩に求めているもの（市民ニーズ調査結果）

当財団及びパルテノン多摩のこれまでの事業（音楽・演劇等の鑑賞事業、博物館事業、貸館事業など）の内容や運営を見直し、市民（利用者、未利用者含む）のニーズや要望を取り入れた事業展開を推進する目的で令和元年8月から10月にかけて市民ニーズ調査を実施しました。

(1) 調査の概要

調査の方法は、多摩市に1年以上居住の13歳以上の男女3,000名を無作為に抽出したアンケート調査と、アンケート回答者の中から有志の方18名にグループインタビュー調査を実施しました。3,000名のうち、回答者は1,135名。回答率は37.8%でした。

(2) 調査結果

調査の結果、多摩市は文化芸術を大切だと思ふ人が89.7%おり、年に1回以上文化芸術を鑑賞する人の割合も77.1%と全国(53.9%)と比較して高いことから、文化芸術について高い市民意識があることが分かりました。

事業の認知度では、「クラシック音楽」(70.7%)が最も高く、市民活動や学校活動として利用の高い「合唱」(60.7%)が次に高い結果となりました。事業の興味度については、「映画」(48.3%)が高く、次に「クラシック音楽」(41.1%)が続きました。

一方で、事業不参加の理由は年齢別に特徴が表れていました。まず10~20代は「何をやっているか知らない」(58.6%)、30~40代は「仕事や家事で時間的余裕がない」(49.7%)、50~60代は「行きたいと思える事業がない」(38.9%)、70代以上は「送迎などのサポートがないと来館が難しい」(13.5%)という理由がそれぞれ他世代よりも突出して高く、世代ごとの課題を示していました。

パルテノン多摩に行かず、他館で鑑賞した理由としては「公演プログラムに魅力がある」(58.6%)、「家族・友人に誘われた」(42.9%)が挙げられました。

文化芸術の情報入手経路や来館頻度についても年齢別に特徴が見られました。例えばパルテノン多摩NEWSは70代以上の方の26.7%に読まれているのに対し、20代には1.7%しか読まれておらず、紙媒体は高齢層には有効だが若年層には効果が薄いこと、ウェブやSNSは10代(54.5%)から60代(41.6%)までの幅広い世代で高く利用されていることが分かりました。来館頻度として、年に1回以上来館する方は70代以上で53.1%と高齢層の来館の割合が比較的高いのに対し、若年層特に20代の同割合は4.2%と、20代の来館頻度が他世代と比較して特に低いことが分かりました。

市民からの文化芸術への期待としては「心の豊かさ」(73.9%)が高く、文化施策へのニーズとしては「鑑賞機会の充実」(60.0%)や「子供たちが参加できる事業」(45.9%)が高い結果となりました。パルテノン多摩への期待としては「気軽にくつろげる施設があること」(59.2%)、「良質な鑑賞事業の充実」(58.5%)、「多摩市のシンボルとなること」(45.1%)が高い回答結果となりました。

市民がパルテノン多摩の運営に参加することについて、17.6%の方が「参加してみたい」と回答しており、一定のニーズがあることが分かりました。

文化芸術活動に参加している人ほど幸福度が高い傾向にありました。文化芸術の鑑賞頻度、パルテノン多摩への来館頻度、パルテノン多摩の市民運営への参加意向などについて、幸福度が高いグループほど、そうでないグループよりも積極的な回答をする傾向がみられました。

(3) 市民がパルテノン多摩に求めているもの

市民が文化芸術に期待するものとしては、「心の豊かさ」、「創造性」、「柔軟性」といった文化芸術本来の価値へのニーズがあり、それに続いて「人的交流・仲間づくり」、「地域活性化・観光」、「教育・次世代育成」、「高齢者・障がい者福祉」といった更に発展的な事業についてのニーズがありました。

また、注力すべき文化芸術施策としては、「鑑賞機会の充実」、「子どもたちが参加できる事業」にニーズがあり、その他「創作活動の支援」、「若いアーティストの発掘や育成」、「情報の発信」、「地域に密着した伝統的な文化体験機会の提供」、「歴史や自然を学ぶ機会の充実」、「市内文化活動を支えるためのしくみづくり」等に一定のニーズがありました。これらの市民ニーズを念頭に置き、事業を計画し、実施してまいります。

また、年齢層による意識の違いが明確になりました。若年層ほど「学校や福祉施設との連携」や「子ども広場」に関心が強く、高齢層ほど、「送迎などのサポートが必要」で「市民の相互交流の充実」に関心が強いことが分かりました。これらの特徴をふまえ、いままでパルテノン多摩を利用したことがない人に対しても、より幅広く文化芸術をお届けできるよう広報や事業内容について工夫するよう努めてまいります。

2 令和2年度事業の実施方針

当財団は「パルテノン多摩」のリニューアル後の運営を担うため、「多摩市立複合文化施設等大規模改修工事基本計画」に示された、新たな理念、基本方針を具現化し、ビジョンを実現する必要があります。新たな「パルテノン多摩」の運営を見据えた財団の課題を整理し、目指す将来像に向けた取り組みとして以下の項目を定め、重点的に推進していきます。

また、令和2年度は、市内各所に出向いて実施する事業と育成支援事業、市民参加事業を中心に事業を展開します。地域貢献を主眼に「人材育成事業」を展開し、アウトリーチ（出張公演）やワークショップ等の事業を、市内小学校を始め学童クラブ等の市内各所で実施します。

管理運営の枠組みとして、改修後の施設の機能・役割を最大限発揮させるために、施設管理の更なる効率化やサービス水準の向上を目指し、財団組織の改革に取り組みます。当財団と民間パートナーの双方が責任を持つ立場で業務を実施していく共同事業体方式を採用し、令和元年12月に基本協定を締結しました。令和2年度に実施が予定されている指定管理者募集に向けて提案の準備を進めます。共同事業体内で協働し、パルテノン多摩再開館準備業務を推進して、施設利用の手続きや施設の運営方法等について利用者ニーズに沿った検討を重ね、再開館時に利用される皆様が戸惑うことなく移行できるよう準備を行います。

- (1) 多摩市及び多摩ニュータウンの様々な主体的で日常的な市民文化活動を積極的に支援して、市民ひとりひとりが個性や特技・趣味を活かして活動し交流することにつなげていきます。
- (2) 財団としての事業活動については、市内公民館、コミュニティセンター等、市域全体に活動領域を広げ、いままで来館していただけなかった方々にも再開館時に来館していただける取り組みを実施していきます。
また、誰もが文化・芸術活動に参加できる環境づくりを実践するため、アクセシビリティ（より多くの人を受け入れること）に配慮した事業の実施などに取り組みます。
- (3) 地域活性、協働連携及び社会包摂の視点から事業を展開していきます。文化芸術事業を通して地域課題解決に貢献していきます。「新しい広場」「クリエイティブキャンパス」等、多摩センター地区の将来像も視野に入れ、文化芸術を通じた話題性・活気ある地域活性事業を実施していきます。

- (4) 令和2年度からは民間事業者と協働して、開館準備に取り組む事から、より柔軟に対応する組織の運営を行います。財団と民間事業者がそれぞれの強みを発揮できる協働体制を構築していきます。

II. 個別事業推進計画

再開館のための企画準備に優先的に取り組みます。各々の計画はより幅広い市民の方々に利用される公益性と収益性を両立させる事業のテストやチャレンジ企画として位置付けます。

1 文化芸術の振興、普及啓発事業

今年度から、施設が大規模改修期間となることから、公民館等で事業を実施するとともに、再開館後の事業展開を視野に事業の組み立てを見直します。普及啓発・人材育成事業については、引き続き実施していきます。閉館記念・再開館プレ事業になる内容を、職員の専門性を発揮して関係先と調整していきます。

(1) 文化芸術振興事業

令和2年度より、新たな組み立てによる鑑賞型事業、普及啓発事業を展開します。趣旨・目的によって分類した3つを軸に展開していきます。

従来から継続してきた室内楽平日ミニコンサート（4回）、落語会、夏休み親子落語まつり等は、新しい組立の中の位置付けで、地域連携、公民館との連携等の一環として実施していきます。

次世代への文化芸術の継承を目的として平成28年度から導入した親子ペアチケット制度（親や祖父母などが子や孫の世代と一緒に鑑賞できるチケット制度）を引き続き実施し、児童や青少年の鑑賞体験につなげます。また、ひとり親世帯親子への招待等も引き続き実施します。

【施設休館に伴い、休止とする事業】

- ・名曲シリーズ
- ・映画作品の定期的な上映

事業名	概要	回数等
〈仮称〉街 de 会いま show! (鑑賞・参加型：出会い・入り口企画)	「街」のいろいろなところで(de)、会いましょう(show=公演が観られる)!という企画。市内各所(野外、商店街、商業スペース、公共施設、飲食店、パブリックスペース、等)で、工夫次第で公演が出来ることの周知を図る。「パルテノン多摩」へ来場することが困難な(交通利便性、身体的な理由等)方々のために実施する意図も込め、再開館後も継続して実施することを視野に入れる。市民協働、地域連携、公民館等との施設連携にもつなげる。	4~8回程度
季節イベント公演 (鑑賞・参加型：継続企画)	子どもから高齢の方々まで、一人でも、家族でも、友達同士でも気軽に参加できる、四季折々をテーマにした公演。毎年恒例(シーズン)で行うことで文化芸術鑑賞が生活時間の中で慣習化することを狙い、再開館後の季節イベント公演へ誘導していく。	季節毎 4回

	<p>多摩センター地区連絡協議会のシーズン・イベントとの連携も行い「街の賑わい」「都市活性化」の目的・狙いも意図する。</p> <p>(例：夏＝七夕、夏休み 秋＝月見、収穫 冬＝正月、クリスマス)</p>	
<p>テーマ別公演 (鑑賞型：特定層対象企画)</p>	<p>再開館後に自主制作を行う劇場への転換も意図する「パルテノン多摩」にとって重要な企画と位置付けて取り組む。平和、国際性、環境、差別、子ども、高齢化等、テーマを決めて企画。一人一人の不安を解消し(または気づき)、自己肯定感を高めることにより、寛容な社会が醸造され「社会包摂」の拡充につなげる。多摩市民の関心事、欲求課題、不安要素等をリサーチ・抽出し、再開館後のテーマ、制作プロセス、参加スタッフ・キャスト等を決定していく。企画実施を通して「プロデュース」「運営・進行管理」「予算管理」などを、現場において指導、監督して職員のスキルアップを図る。</p>	2回

(2) 普及啓発・人材育成事業

「多摩市文化振興財団」「パルテノン多摩」の新たな中核事業となる地域貢献事業として、「シアターエデュケーション・プログラム」(舞台芸術により、人の能力を引き出し、導く)を用いた市民参画事業を企画実施していきます(一般財団法人地域創造「地域の文化・芸術活動助成事業」に採択内定済)。

「独自のシステム・プログラムによる『市民サポーター』(仮)の継続した支援・育成」、「『シアターエデュケーション』という概念を用いた、人材育成・組織の意識改革・社会包摂の拡充実現」、「『多摩市域』『市民参画・市民活動支援』『社会包摂拡充』の視点」を基にした事業で、「自己肯定感の向上を図り、自尊感情を育む。」「自分を信じる力を育み、他人を認めることができるようになる。」「社会包摂の形成を図り、安心して生きることができる地域・広場(居場所)を創出する。」といったことが期待されます。

事業名	概要	回数等
市民舞台芸術学校	<p>広く市民に対して文化芸術活動へ参加する機会・場を創出。合同の成果発表会等を予定。将来的には劇場事業を協働して支える人材・一流の市民芸術家を育成することを目的として行う。</p> <p>(例：市民プロデューサー講座、地域課題ワークショップ、表現系講座、伝統芸能講座、舞台</p>	7～8コース程度

	スタッフ（技術系）講座、子ども表現ワークショップ、等）	
市民参加演劇公演	講座の参加者はもとより、文化芸術活動に関心のある方々（初心者含め）に向けた企画。出演者30～40名、スタッフ20名程度を募集予定。「みんなが創る！みんなで創る！」を合言葉に、多摩市の歴史、文化財等を取材して創作した音楽劇を上演。	稽古40～50回程度 本番2～3回予定
市民サポーター制度	「市民舞台芸術学校」修了生を中心として、事業に公演スタッフとして参加。また、地域で行う「アウトリーチ活動」等にもスタッフとして参加。再開館後の「パルテノン多摩」を支える「市民組織」の構築を意図して実施。事業に参加する市民が価値観と活動方針を共有できるように内容を工夫して企画する。	通年 随時

「シアターエデュケーション・プログラム」を構成するもうひとつの企画として、「文化芸術による人材育成」を実施します。（本事業は、一般財団法人地域創造「地域の文化・芸術活動助成事業」に採択内定済）。

市民・専門家・行政との三者協働による、文化芸術による、より多くの人を受け入れる「まちづくり」を実現するため、各種のアウトリーチを実施していきます。

事業名	概要	回数等
レジデンスアーティスト制度	事業に携わる専門家として、当財団・多摩市が目指す活動方針に沿った価値観・実現可能なスキルを得るために、独自のシステム・手法を導入してアーティストを発掘し、育成・養成。選抜・育成されたメンバーが、アウトリーチ・市民参加企画の企画・運営・実施を担う。将来財団事業を協働して支える人材・多摩市の文化芸術を共に担うパートナー・一流の芸術家を育成することを目的とする。	オーディション年1回 養成講座数回実施
アウトリーチ・学校プログラム （対象：学校授業内の児童・生徒、教員）	令和2年度は、市内の小中学校を対象に、コミュニケーション・表現ワークショップ等を行う。小学校を対象に、学芸会の全年指導等を行う。	15回程度

アウトリーチ・放課後プログラム (対象：学童クラブ、児童館等の児童・生徒、職員)	放課後の学童クラブ、児童館等で行うワークショップ。小学生～高校生・職員を対象として実施予定。	15 回程度
アウトリーチ・特別プログラム (対象：障がい、不登校、他の困難を抱える方々)	市内の障害者施設、不登校児童施設及び施設未所属児童、心身・環境に困難を抱えている方々を対象とした「特別なプログラム」を実施。誰でも文化芸術を享受できる機会・場を創出。	10 回程度

2 郷土の文化及び自然環境の振興、普及啓発事業

再開館に向けて発展的な新しい事業展開として、地域全体の文化資源をつなげ、全ての市民が学芸員となる「地域まるごと博物館（エコミュージアム）」構想に向けて事業を実施していきます。再開館後の「パルテノン多摩」は、地域の中の様々な文化資源をつなげる「ハブ」（基点）としての役割を担い、人々の交流を促進し、多様な地域の魅力や課題の発見・発信を行い、地域への愛着を育み、住む人それぞれがこの地域を理解し誇りと喜びを感じられる場となることを目指し、市民が「発掘」した貴重な地域資源を次世代に継承していくサポートをしていきます。その準備として「地域とのつながり構築」と「リニューアル準備」を軸に事業を行っていきます。

また、研究成果の発信として、当財団設立以来蓄積してきている展示図録・資料叢書等の刊行物を引き続き販売・配布します。依頼の多い所蔵写真資料等の提供も、引き続き積極的に対応していきます。再開館後の展示のレファレンス機能強化を視野に所蔵資料のデータベースの蓄積・公開や多言語対応等、着手できるところから実施していきます。

各事業の実施にあたっては、多摩市立図書館や多摩市教育委員会との連携を継続していきます。

(1) 地域とのつながり強化

様々な場所や人々とのつながりを強化することを目指して、出張展示やアウトリーチ講座を実施します。

事業名	概要	回数等
出張展示 (仮称：どこでも博物館・どこでも展示・つながる展示など)	1 回目は、植物と生活・民具を融合させた展示を大学や教育委員会と連携して実施。2 回目は、令和 2 年度末に多摩ニュータウン初期入居から 50 周年を迎えることをふまえ、記念となる展示内容で計画。公民館や空き店舗を会場に、市民協働成果をもとに、地域理解につながる展示を実施。	2 回

出張講座・アウトリーチ事業 古文書講座 (仮称：つながる講座・身近で 学ぶ古文書の世界など)	令和2年度は市内各所の会場で行い、これまで参加できなかった市民に参加機会を提供する。初級コースでは、古文書に初めて触れる方々を対象に、くずし字の読解から古文書の解読までを行い、中級コースでは、古文書解読の経験者を対象に、多摩市や周辺地域の古文書の実践的な解読を行い、古文書を通じて地域理解を深める。	8回
出張講座・アウトリーチ事業 植物観察会 (仮称：つながる講座・身の回 りの植物観察など)	「みんなの植物観察会」(初級)では、植物観察に関する初心者を対象に、野外で身近な植物を観察。昆虫専門家も招いて実施。「ステップアップコース」(上級)では、植物に関するより幅広い知識や技術の習得を目指し、「みんなの植物観察会」等へ還元できる人材の育成を兼ねる。各自で観察テーマを設定し、成果発表。	14回
出張講座・アウトリーチ事業 学芸員派遣事業(アウトリー チ) (仮称：みんなの学芸員など)	学芸員による出前授業等。コミュニティセンターや学校等を対象に、市内各所に出かけていく。	18回程度

(2) リニューアル準備

新たな博物館構築に向け、パートナーとなる人材を養成するとともに、市民と連携した調査研究活動、展示室リニューアル準備、デジタルアーカイブ等の構築を行います。

事業名	概要	回数等
人材養成、市民学芸員養成講座	地域まるごと博物館活動のためのパートナーとなる市民学芸員を養成する(令和2年度は基礎講座を実施)。	5回程度

<p>市民と連携した調査研究活動</p> <p>① 古文書解読ボランティア</p> <p>② 植物標本整理ボランティア</p> <p>③ 多摩くらしの調査団</p> <p>④ 定点撮影プロジェクト</p>	<p>① 市民研究員が多摩市内に残る古文書を解読し、解読した成果を書籍にまとめ、展示に生かす。活動場所を図書館等に移し、連光寺村の富澤家日記の刊行につなげる。</p> <p>② 多摩市植物友の会と一般市民の有志の協力を得ながら、植物標本の収集と整理を行う。植物標本コレクションの点検を行い拡充する。</p> <p>③ 多摩の民俗について、市民研究員が主体となって調査・記録。東寺方地区での現地調査を実施。</p> <p>④ 多摩ニュータウンの中でポイントを決め、市民研究員を募って景観の変貌を撮影。オリンピックの聖火リレーやロードレース・多摩ニュータウン初期入居 50 年の撮影を行うとともに、博物館リニューアルに向けた撮影を継続。</p>	<p>通年</p>
<p>研究成果の発信</p> <p>① 資料叢書の刊行</p> <p>② 所蔵写真等の提供</p>	<p>①各種調査の成果をまとめ、今後の活用のため基礎的な資料集として公開。古文書解読ボランティアによる富澤家日記を刊行。</p> <p>②所蔵写真資料等の提供に引き続き対応。</p>	<p>通年</p>
<p>展示室リニューアル準備</p>	<p>「地域まるごと博物館」の核となる展示室のリニューアル準備のため、展示内容や市民活動スペース等の具体的な計画を作成。</p>	<p>通年</p>
<p>デジタルアーカイブ</p>	<p>休館中にも博物館コンテンツに触れられるようにデジタルコンテンツの整備と公開を行う。</p>	<p>通年</p>

3 地域活性化事業

当財団は、地域活性のための活動に、より積極的に取り組んでいきます。文化芸術を活用した地域振興は市民の交流を促し、市民が生き甲斐や自信を持ち、市民の社会参加の促進につながります。文化 NPO 等の市民団体との連携を深めながら取り組んでいきます。

また、多摩中央公園を核とした広がりをもった事業展開（クリエイティブキャンパス構想）に取り組み、多摩中央公園に移転する多摩市立図書館、グリーンライブセンター、旧富澤家、桜美林大学多摩アカデミーヒルズとの連携を強化し文化と学びを結びつけることで、多摩センター地区や多摩市の活性化を目指します。多摩センター地区連絡協議会の一員として、多摩センター地区における美化活動や協議会主催イベント等に参加・協力し、街に賑わいや憩いを生み出していきます。市内の施設・ロケーションの効果的な活用の提案も行い、地域の賑わいづくりを目指します。また、協議会主催イベント等と同時開催の財団オリジナル企画も検討・実施していきます。

事業名	概要	回数等
文化NPO等との連携事業	「Poco Poco Festa」等、地域の市民団体と連携し、子どもや若い世代を中心にした文化芸術の鑑賞・体験・創造機会を創出。	1回程度
多摩センター連絡協議会等協力 こども祭り・夏祭り・ハロウィン・イルミネーション	イベントエリアでの企画立案・実施、ブースでの活動紹介・公演案内等を行う。 (パルテノン多摩の周知も含める)	5月 8月 10月 11～12月
夏の夜のお出かけシネマ事業	多摩センター地区の活性化も踏まえ、家族等で鑑賞する機会を提供する野外映画会。	夏休みに開催。

4 コミュニティ活動支援事業

従来から共催や提携等の形で協力支援してきている市民文化活動に対して、「パルテノン多摩」休館中の代替施設での催事の会場費一部負担等を、引き続き協力支援していきます（大ホールの代替施設での活動支援については令和元年度より開始）。

一方で、再開館後の市民文化活動への支援の在り方について、令和2年度は、他自治体等が行っているアーツカウンシル（文化芸術事業への助成・支援を行う機関）等の事例調査も行いながら、見直しを進めます。

項目	概要	備考
代替施設等の確保の支援	施設利用料金・附属設備利用料金を利用料金の一部負担等の支援（仕込・リハーサルも含めて）。	市内公民館等の会場
代替施設確保の支援	施設利用料金・附属設備利用料金の総額の半額負担等の支援（仕込・リハーサルも含めて）。	市内公民館等の会場
代替施設での催事の広報等の協力	当財団の広報誌等で開催告知掲載、移転仮事務所窓口で預かりチケット取扱い、等。	通年
新しい市民活動支援の制度検討	全国の他施設やアーツカウンシル等の事例調査。検討を進める過程で適宜、市民文化団体との意見交換会を開催。令和3年度には新しい制度を告知する。	意見交換会：2～3回程度

*施設で活動してきた市民文化活動

- ・Brass Festa 多摩 ・多摩ユースオーケストラ ・多摩管弦楽団 ・多摩市合唱祭
- ・多摩市民「第九」演奏会 ・三多摩童謡ファミリーコンサート ・東日本大震災復興支援コンサート

- ・多摩市民バレエ ・TAMA CINEMA FORUM ・EARTH VISION 多摩 ・アートパラダイス展
- ・多摩ニュータウン野外コンサート ・多摩くらふとフェア

5 票券、友の会、メセナメンバー

改修休館を迎え、これまでの長きに渡るパルテノン多摩のファンであり個人スポンサーとも言えるアテナクラブ会員に代替施設での普及啓発事業（鑑賞事業）等を実施し、改修休館中の年会費無料化及び会員期間延長等の対応をしていきます。メセナメンバーについても、引き続き協賛をお願いしていきます。

再開館に向けては、令和2年度より共同事業体としての運営となるため、チケット予約システム、友の会会員管理システム、広報等について、共同事業体を構成する他企業と連携・移行等について検討し準備を進めます。

6 受託事業

多摩市から、文化振興事業の他、市制施行50周年記念誌事業を受託して事業を実施します。

事業名	概要	回数等
文化振興事業等業務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休館中文化振興業務 ・ 大規模改修関連業務 ・ 再開館準備業務 	通年
多摩市市制施行50周年記念誌事業	令和3年（2021年）発行に向けた多摩市記念誌編集支援業務	通年

Ⅲ. 法人運営

1 地域貢献に関する取り組み

地域が抱える社会課題解決に向けた取り組みとして、劇団四季による「こころの劇場」については休館中のため、調布グリーンホールにおいて実施し、市内の小学生に「人を思いやる心」などについて舞台を通じて語り掛ける取り組みを実施します。

2 組織運営・研修

(1) 組織体制

令和2年度より、共同事業体での取り組みが本格的に始まることから、民間パートナーと協力して、より効率的かつ柔軟な運営体制への移行を行います。

業務の目的・内容・課題に応じてメンバーを集め、プロジェクトチーム形式で業務にあたることのできるようにするなど、より横断的かつ柔軟性のある形で業務遂行を行える体制を整えます。

(2) 研修計画

共同事業体として、共通の目標を持ち、また互いの業務を理解し、それぞれの業務に取り組むための合同研修を民間パートナー主導で実施します。

財団としても、自主事業の企画・立案に関する研修、適正な組織運営に関わる研修等への積極的な受講など、財団を運営する職員として必要となる知識・スキルのベースアップを図ります。

また、施設が休館中であるからこそ、地域に出向き、地域の様々な声に耳を傾け、地域の課題把握やその課題の解決に向けて文化・芸術の力で助力できるよう、地域とのコミュニケーションを密に行ってまいります。

以上を進めるうえで、財団職員に求める人材像（能力・資質・スキル等）の明確化を図ります。

IV. 施設大規模改修に伴う関連業務

1 工事引き渡しまでの施設管理

令和2年3月31日をもって、パルテノン多摩は大規模改修工事に向けて休館となりました。休館中は、従来実施してきた「施設貸与事業」「施設利用者に対する付帯サービス事業」「撮影等場所提供に関わる事業」については休止としますが、改修工事のための市への引き渡し（令和2年6月末予定）までの間の施設の維持管理は、財団が責任をもって行います。

期間中の防犯対策として、外部からの来館者の施設への入館について、入館証による入退館管理を徹底するほか、監視カメラによる管理など、不審者等の入館を防止するための対策を行います。

2 大規模改修関連業務

(1) 事務所機能の移転

施設改修工事中の財団事務所の機能については、近隣の事務所スペースを借り受け、執務を継続します。6月までに事務所の移転を行います。

また、移転先の事務所には、市民活動スペースを設け、市民団体やボランティアの方々ができるようにするなど、再開館後の市民参画による運営等を見据えた活動につながる機能をもつ事務所として、運営を行ってまいります。

(2) 備品等の管理について

① 備品の搬出・管理

施設の大規模改修工事の施工のための引き渡しまでに、現在施設内にある舞台備品等について、搬出を行います。搬出については、作成した搬出計画に基づき、旧豊ヶ丘中学校を搬出先とし、再開館後も必要となる備品等必要な物の一時保管を行います。

保管を行う物品については、適宜、立ち入りによる確認を行います。確認にあたっては温湿度の確認や保管先に設置する加湿設備の運転状況の確認等、保管スペースの状態確認も含めて実施します。

また、パルテノン多摩内で管理しているピアノについても他の備品同様に搬出及び保管を行います。

一部は他の備品と共に旧豊ヶ丘中学校に搬入し保管を行うものと、専門事業者のピアノ保管庫への保管を依頼するものに分けて管理する予定です。

②自動演奏楽器収蔵業務

現在、施設 4 階マジックサウンドルームにある自動演奏楽器については、再開館後も継続して活用するほか、一部については、中央公園内に新たに建設される市立図書館に設置し、活用していく予定です。そのため、工事期間中はパルテノン多摩内の収蔵庫等にて保管を行います。工事引き渡しまでに移送・収蔵を実施します。

③備品管理選定

これまで、指定管理者として備品管理を行ってきた中で把握している備品の状態から、再開館後に新規に購入が必要となる備品について、市へ提案を行います。

(3) 収蔵庫の保管備品・文化財点検業務

工事期間中についても、職員の立ち入りによる 保管物品の管理・点検を行い、備品及び文化財の維持・管理に努めます。

V. 施設の再開館後の運営に向けての準備業務

1. 再開館に向けた事業展開

再開館に向けて、広く来館者に来ていただくこと・諸室の機能を利用者に体験していただくことを目的として、多様なジャンルの公演や市民参加の公演等の企画を検討し、令和4年度内開催（オープニング・イヤー、令和4年3月～令和5年2月）として計画していきます。また、全国の文化施設関係者等へ機能向上を周知する事業、プレオープン後の「内覧会」や「お試し利用」等も検討・実施します。再開館記念事業は新たに設置する「パルテノン多摩再開館記念事業委員会」を中心に検討し、多摩市と協議の上、公演団体、演目等の選定を行います。

2. その他財団による再開館準備業務

(1)市民相談業務

再開館後の施設利用を希望する市民に対する相談・問い合わせに対応し、再開館後のパルテノン多摩に期待を持っていただけるような相談支援を行ってまいります。

(2) 調査業務

令和元年に実施した市民ニーズ調査について、より効果的に事業展開に活用できるよう、市内のフィールド調査やヒアリング調査等を実施するほか、再開館後のパルテノン多摩の運営に活用できるような他館の先進的な取り組みについて調査を行います。

そのほかにも、休館中事業やオープニング事業、再開館後事業において活用可能な、補助金・助成金獲得についての研究も進めます。

(3) 備品管理運用システム構築

再開館に当たっては、休館中に財団が保管・管理を行う備品に加え、新たに購入する備品、再開館後の管理運営のために民間パートナーにより持ち込まれる備品など、様々な備品が存在します。それらの備品の所在や所有者等が明確になるような備品管理システム・運用ルールについて民間パートナーと協議を行い、再開館後の運営がスムーズに行われるよう準備を進めます。

(4) 関係機関等連携・調整

①施設運営関係者との協議・調整

レストラン事業者、新設される子どもエリアの運営事業者、市民組織など、施設運営に関わる関係事業者・団体と、協議・調整を行い、再開館後の施設全体がスムーズに運営されるよう準備を行います。

②多摩中央公園内機能連携準備調整業務

今後、多摩中央公園内に開館する図書館本館との連携、その他多摩中央公園内施設と機能連携についての検討を行うほか、今後設置されるクリエイティブキャンパス構想への参加など、地域の公共施設等と連携及びその準備を進めます。

(5) 広報・宣伝

これまで、「パルテノン多摩 NEWS」や「パルテノン多摩ホームページ」を中心に展開してきた広報・宣伝ですが、昨年度実施した市民アンケートの結果も踏まえ、共同事業体民間パートナーと協力し、新たな広報展開を行います。

また、パルテノン多摩 NEWS の内容についても、休館中は、これまでの事業の広報に加え、施設工事の進捗状況や再開館後のパルテノン多摩に新たに設けられる施設や機能の情報等を掲載し、市民の方々に再開館後のパルテノン多摩にも期待を持っていただけるような内容を盛り込んだ情報発信を行います。

3. 共同事業体による再開館準備業務

再開館後の運営を担うことを目指すにあたり、令和元年7月よりプロポーザル方式による民間パートナーの選定を実施し、同年8月に選定した民間パートナー3社と、令和元年12月10日付で「パルテノン多摩共同事業体」（以下、共同事業体）を設立しました。構成企業は以下のとおりです。

令和2年度においては、共同事業体として、大規模改修工事完了後のパルテノン多摩の第6期指定管理者としての受託を目指して、管理・運営のあり方について効率的かつ効果的な運営方法を研究・検討し、市に対して提案をしております。

その他、再開館準備に向けて、以下の業務を実施します。

【パルテノン多摩共同事業体構成企業】

- ・公益財団法人多摩市文化振興財団（代表団体）
- ・株式会社 JTB コミュニケーションデザイン

- ・野村不動産パートナーズ株式会社
- ・株式会社フラットステージ

(1) 共同事業体民間パートナーが担う事業

- ① 工事関係協議（運営・維持管理・舞台）
- ② 広報宣伝活動
- ③ 貸館対応準備活動
- ④ 一般問い合わせ対応
- ⑤ 施設関係者協議・周辺施設関係者協議
- ⑥ 市民活動支援
- ⑦ 舞台備品管理選定
- ⑧ 管理運営準備
- ⑨ 保管備品管理・補修業務

Ⅵ. 本計画の効果測定及び評価について

公的資金を活用して実施される当財団の事業活動は、職員が自主的に行う内部評価を行います。令和元年度から実施している事業ごとのPDCAサイクルにより検証し、次年度事業に反映させるとともに、顧客満足度の向上に努めます。

また、令和2年度は事業企画の内容や事業収支等の点検を行う「外部評価委員会」の創設に向けた検討・取り組みを進めます。

Ⅶ. まとめ

令和2年度は大規模改修初年度となります。この休館期間を活用して市民と共に創る「パルテノン多摩」の実現に向けて、リニューアル（再開館）の準備や再開館記念事業の策定を行います。市民の方々や市民団体の皆さんの声に耳を傾け、共同事業体として、より利用しやすい安心して利用できる施設運営の準備業務にあたります。

質の高い文化芸術に触れる機会をより多くの方々に提供し、市民の文化創造活動を支援する複合文化施設を目指すとともに、気軽に立ち寄れくつろげる施設となり利活用者の拡大、来場者の増大を目指します。

そのためには、策定した個別事業計画を推進しつつも、柔軟に見直していくことを是とします。また財団組織や人事制度の改革を推進します。日常的な業務指導(OJT)に加え、共同事業体として研修計画(OFF-JT)を策定し、財団職員及びパートナー社員のレベルアップを図ります。民間パートナー社員も含め、ビジョンの共有を軸とした再開館に向けた職場の一体感の醸成と職員の育成を図ります。

以て、市と共に文化芸術が振興し、「まちのシンボル」となることを目指していきます。